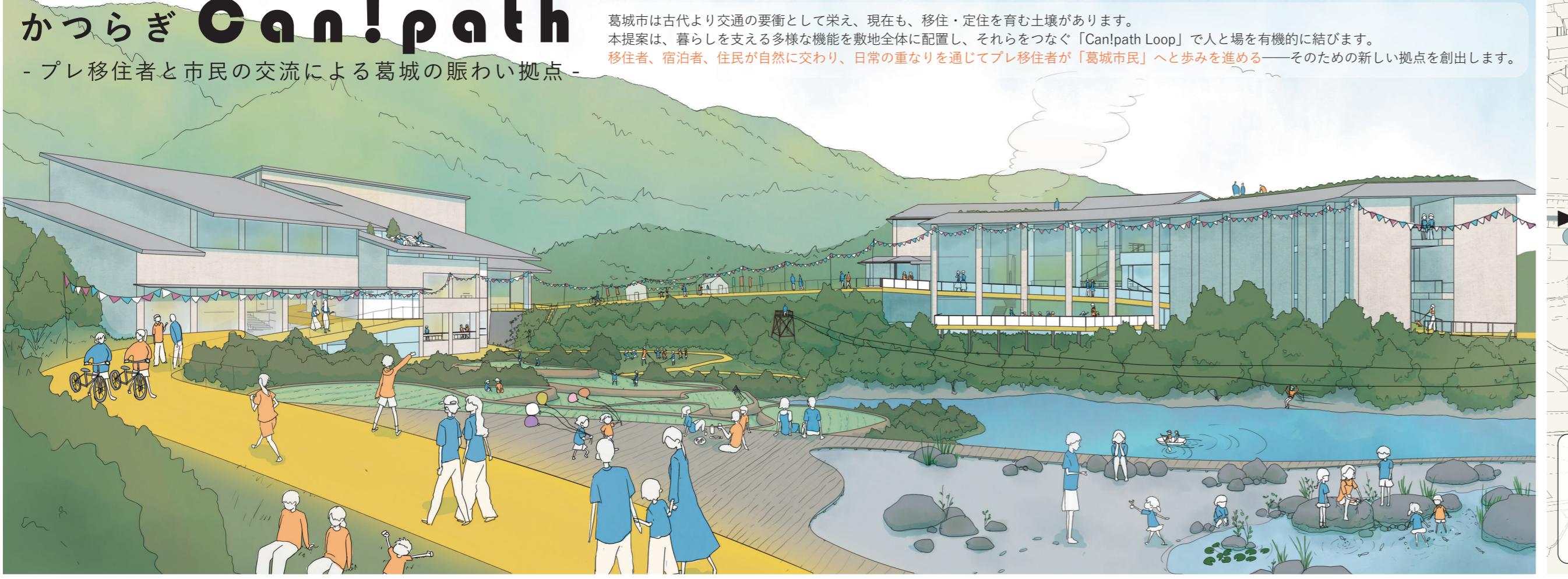


キャンパス かつらぎ Can!path

- プレ移住者と市民の交流による葛城の賑わい拠点 -



葛城市は古代より交通の要衝として栄え、現在も、移住・定住を育む土壤があります。
本提案は、暮らしを支える多様な機能を敷地全体に配置し、それらをつなぐ「Can!path Loop」で人と場を有機的に結びます。
移住者、宿泊者、住民が自然に交わり、日常の重なりを通じてプレ移住者が「葛城市民」へと歩みを進める——そのための新しい拠点を創出します。

リビング Base 2F：プレ移住者住居とホビールーム間の Can!path Loop が人々の交流を促す



01 ここから広がる、新しい暮らしのカタチ

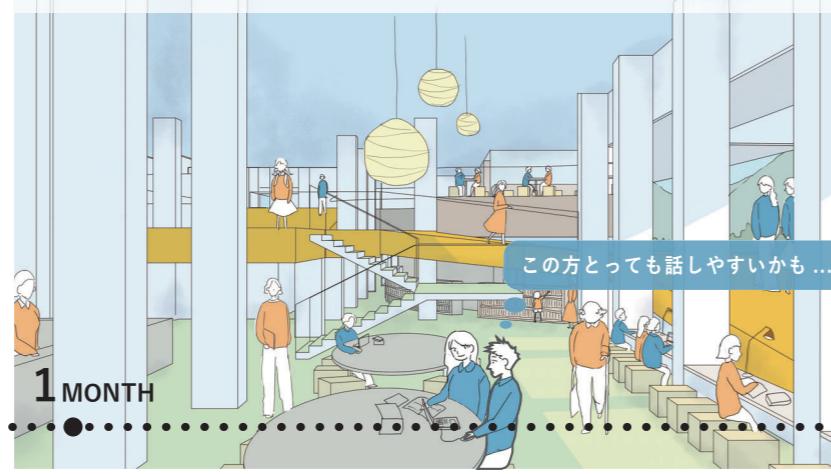
葛城市は地方移住先としての高いポテンシャルを
持っていますが、一方で、見知らぬ土地で新しい暮
りを始めることは、プレ移住者にとって大きな
ハードルとなります。本提案では、その解決策とし
て、「**「知る → 来る → 関わる → 試す → 暮らす**」
という段階的なステップを用意しました。これにより、
プレ移住者が無理なく地域と関わりを深めつつ移住
へ移行することができます。



【今まで】移住への高いハードル

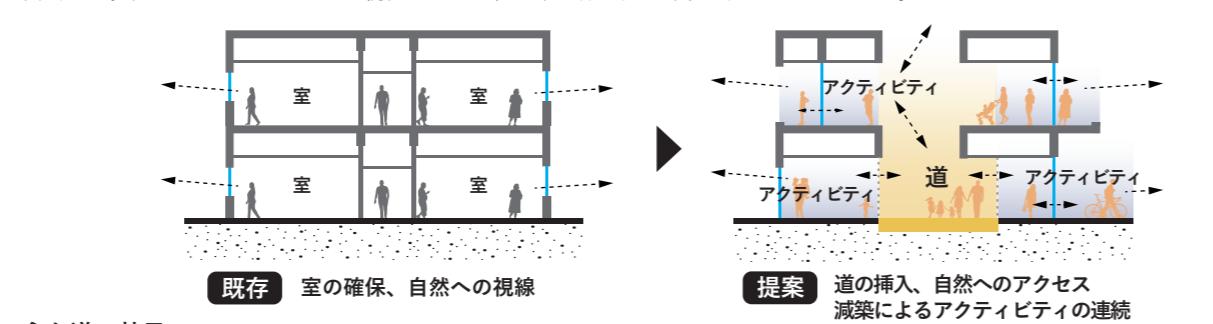
【提案】段階的なステップ

アクティブ Base 1F：自然を望む、健やかなコワーキングスペースで移住準備を進める

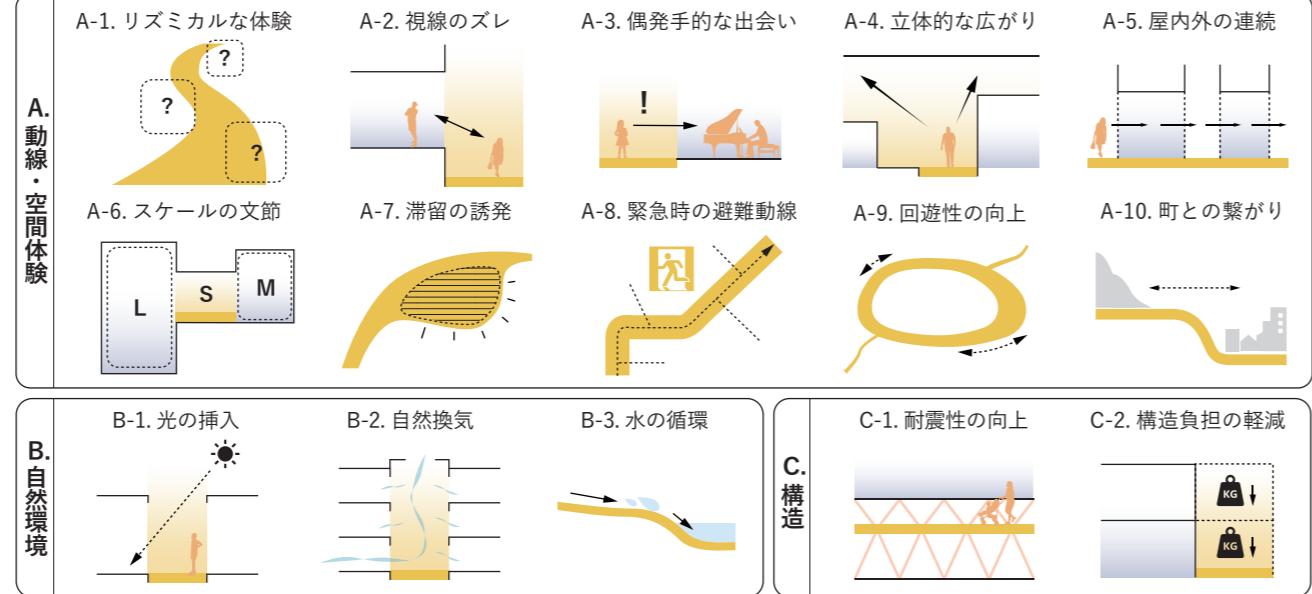


03 「Can!path Loop」を中心とした建築提案 一部屋を超えて、街へひらく建築ー

建物に「道（Can!path Loop）」を挿入することで、室と室、人と人、そして自然をつなぐ空間を創出します。これにより、偶発的な
出会いや多様なアクティビティの連続性が生まれ、建築全体が街や環境へ開かれていきます。

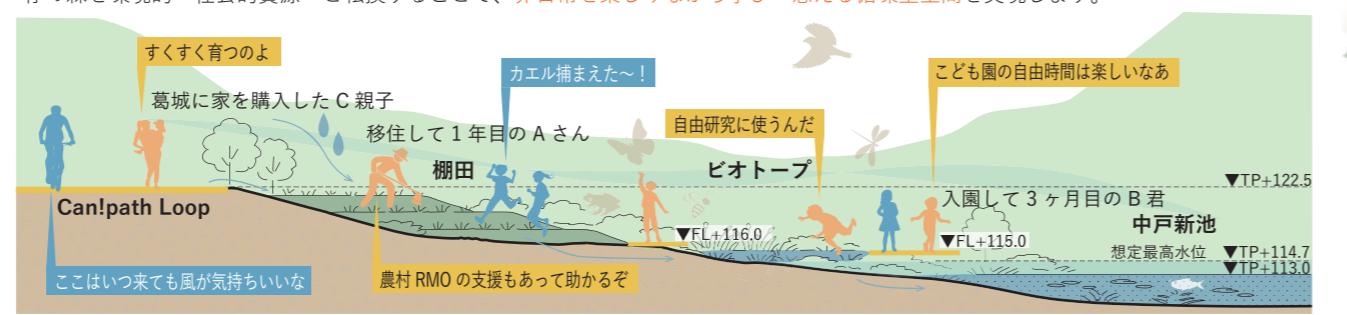


主な道の効果



04 豊かな自然環境を生かしたエコラーニング

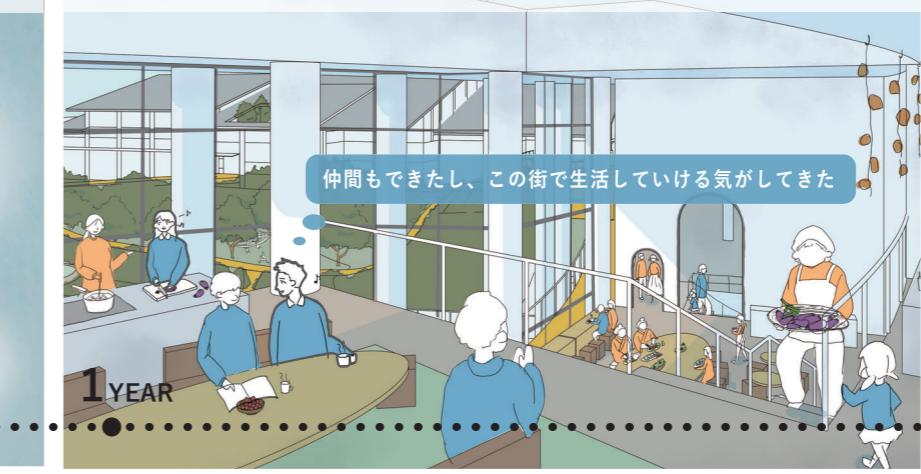
棚田・ビオトープ・ため池を運動させる水循環の環境提案により、地域の豊かな自然を活かした持続可能な景観と教育の場を創出。既
存の森を環境的・社会的資源へと転換することで、**非日常を楽ししながら学び・憩える循環型空間**を実現します。



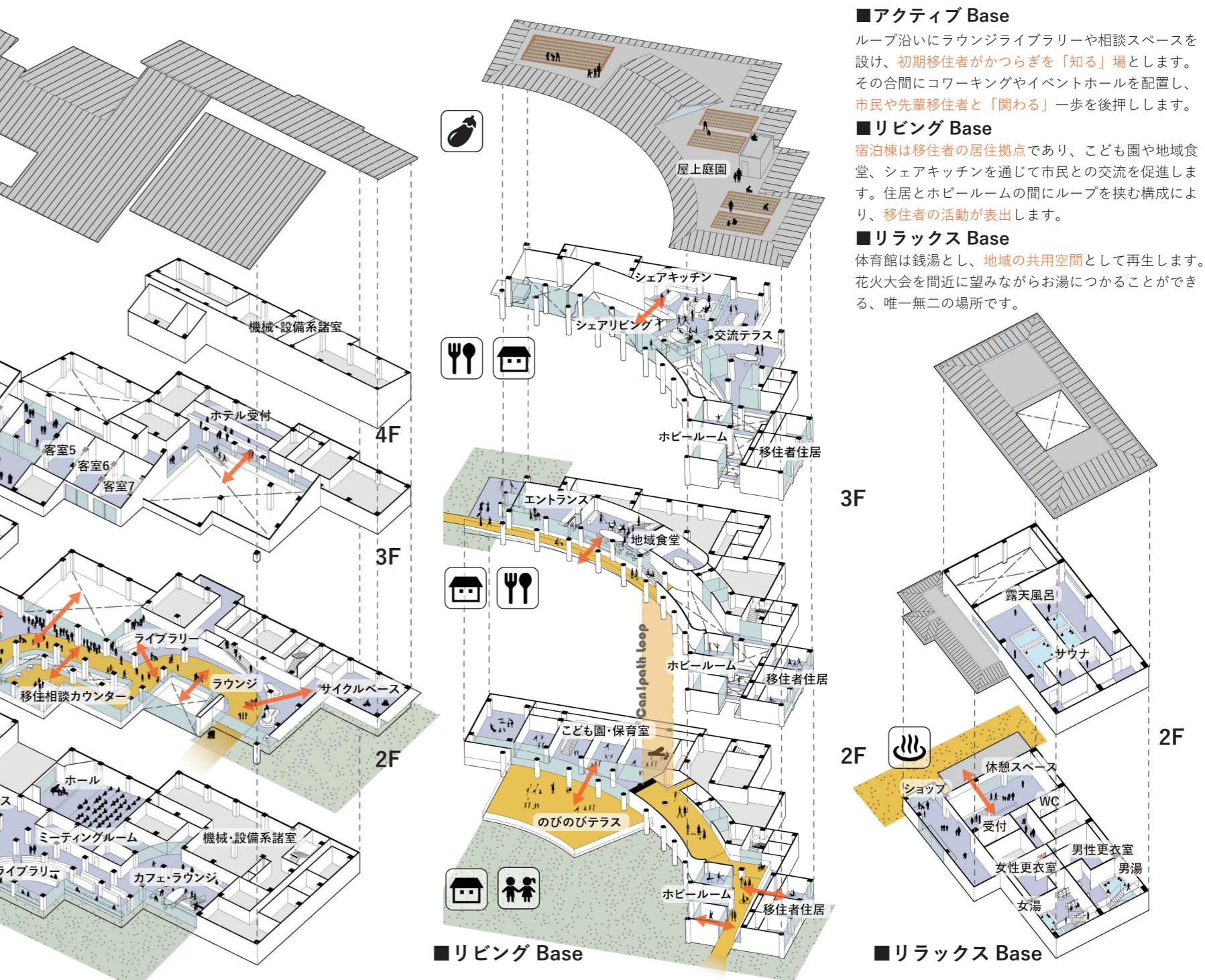
00 Can!path MAP 自然の魅力を最大化するよう分散配置したコンテンツとそれらを結ぶ Can!path Loop の提案



リビング Base 3F：特産品を使った地域食堂と住民の共有キッチンでは交流の場となる



05 建築計画—「Can!pathLoop」で交わるアクティビティー



■アクティブ Base

ループ沿いにラウンジライブラリーや相談スペースを
設け、初期移住者がかつらぎを「知る」場とします。
その合間にコワーキングやイベントホールを配置し、
市民や先輩移住者と「関わる」一步を後押しします。

■リビング Base

宿泊棟は移住者の居住拠点であり、こども園や地域食
堂、シェアキッチンを通じて市民との交流を促しま
す。住居とホビールームの間にループを挟む構成によ
り、移住者の活動が表出します。

■リラックス Base

体育館は銭湯とし、地域の共用空間として再生します。
花火大会を間に望みながらお湯につかることができます。
唯一無二の場所です。